

# まちのキラリびと



あなたすすき  
とてもすすき

とても敦賀すすき  
代表 森野 巧巳 さん

## 敦賀の心 新民謡

元々昭和歌謡が大好きで、レコード収集をしていました。そんな中、「敦賀とてもすすき」のレコード内にある「敦賀ばやし」という曲を気に入ってから、敦賀を題材にした新民謡にのめり込んでいきました。市民に馴染みのある「大敦賀行進曲」や「気比音頭」をはじめ、新民謡にはどの曲も振り付けがあることに気付き、「この曲や振り付けは誰が知っていて、30年後には誰が踊れるのだろうか」と疑問に思いました。日本舞踊花柳流さくら会会主の花柳太英大和先生をはじめ関係者の皆様の協力をいただき、新民謡を後世へ残していくことを目標に、同級生7人を含めた12人で団体を立ち上げました。

主な活動として、昨夏に開催された「高校生合同文化祭」や「つるがこども縁日」、先日の「花換まつり」など、市内各種のイベントに出演して踊りを披露しました。

踊りを披露することもそうですが、若い世代に踊りを身近に感じてもらうことが大事です。今年度は、敦賀西小学校と角鹿中学校で踊りの講習会を実施しました。

踊りを教えるためには、私も含め団体メンバーそれぞれスキルアップが重要です。指先ひとつの動きで、踊り全体の見栄えが変わってきてしまうので、しっかりと意識して日々練習に励んでいます。

敦賀には埋もれている素晴らしい新民謡がたくさんあります。これらをもっと広く知っていただけるように努力していきます。

活動などを発信しています

note



## まちの宝を発見！ つるが歴史遺産



ユダヤ難民と彼らを助けた人物を  
伝える貴重な資料が敦賀にあります

案内人 学芸員 藤本 悠希

「心を込めて」「私を忘れないでください、素敵な日本人へ」などと裏面に綴った自分の顔写真を、彼らはどうのようないきもちで大迫氏に渡したのでしょうか。この大迫氏のアルバムは、ご縁があり、現在敦賀市に寄贈されています。レプリカを人道の港 敦賀ムゼウムでいつでも見ることが出来ます。

当時、国を追われたユダヤ難民の人々がたどった逃避行のルートや、その手段、その後の人生は千差万別です。そしてその数と同じだけ、彼らのために手を尽くした人々があります。いま名が知られているのはそのごく一部のみに過ぎません。現代の紛争においても、同じことが言えるでしょう。



大迫アルバム

## 荒波を越えて敦賀へ

1940年代初頭、第二次世界大戦の戦火と迫害が広がる中、多くのユダヤ人が日本の通過ビザを持って敦賀にやって来たことは市民によく知られています。また、彼らにビザを発行した当時リトアニア領事代理であった杉原千畝氏は全国的に知られており、日本人で唯一「諸国民の中の正義の人」に認定されています。

一方、杉原氏以外のユダヤ難民を手助けした人物についてはあまり知られておらず、ここで紹介する大迫アルバムの最初の持ち主、大迫辰雄氏もその一人です。

大迫氏はジャパン・ツーリスト・ビューロー（現在のJTB）の社員で、アメリカのユダヤ人協会の依頼を受け、ユダヤ難民たちに入国資金を渡す業務に就いていました。大迫氏は昭和15年（1940）9月から翌年の6月までの間に十数回、敦賀ーウラジオストクを結ぶ天草丸に乗船し、彼らの逃避行の手助けをしました。アルバムには、大迫氏がユダヤ難民たちに献身的に接したことに對する感謝の気持ちとして乗船客から贈られた写真が納められています。

「私の親しい友人、大迫辰雄に私の良き思い出を」「心を込めて」「私を忘れないでください、素敵な日本人へ」などと裏面に綴った自分の顔写真を、彼らはどうのようないきもちで大迫氏に渡したのでしょうか。

### 広報担当者のつづき

春は別れの季節。窓口業務時代にお世話になった先輩や、前の職場の上司・同僚、苦楽をともにした同期が退職しました。皆さまには本当にお世話になりました。皆さまから教えられたこと、いただいたものはこれからも大事にさせていただきます。新しいステージでも頑張ってください。(T)

北陸新幹線敦賀開業まであと1年。表紙のプライダルショーや16頁のカウントダウンイベントは、開業1年前を記念した企画です。市内では、さまざまなイベントが行われ、盛り上がりを見せています。広報紙でも今後、北陸新幹線敦賀開業に関する連載企画を考えています。お楽しみに！(M)